

(第2回 午前)

2023(令和5)年度適性検査問題

適性検査Ⅰ

(実施時間：45分)

《注 意》

- (1) 問題は 1 のみです。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。

城西大学附属
城西中学校

1 文章Ⅰと文章Ⅱを読んで、後の問いに答えなさい。

文章Ⅰ

共同・協力する力、一緒に困難を乗り越切る力というのは、人間が人間として生き延びてきた原動力なのです。これは別の見方をすると、一緒に喜び合える力であり、この力があるからこそ、生きていて楽しいと思えるのです。これがやがては恋愛感情にもつながります。

A、子どものころにやった、鬼ごっこやかくれんぼは、みんなで一緒にするからこそ楽しい遊びです。みんなで知恵を出し合って、新しい自分たちのルールを考えたら、遊びがもっと面白くなります。ときには、年齢の小さい子が交じっていて、「この子はおみそ^{※i}」などと言ってその子だけ鬼にならないように配慮^{はいりよ}して、小さな子たちも一緒に遊べるように工夫したかもしれません。遊びは共同しないと楽しく遊べませんから、そういう力をたくさん学ぶことができます。

皆さんのような年齢になれば、友達同士でキャンプに行こう^①と、計画を立てることもあるでしょう。少し険しい道のりも、友達と一緒になら、頑張って歩き通すことができたりするから不思議です。わずかな水や食料しか持たないで、山で道に迷ってしまったとき、それを乗り切るのに大切なのは、まさに共同力です。みんなで一緒に何かに取り組んで、互いに喜び合う。困っている子がいたら、みんなで助ける。そうしているうちに、一緒に危機を乗り越える、共同的な危機管理能力が^{つちか}培われていきます。

この二〇〇〇～三〇〇〇年で、文字・書物ができ、文化が伝わってきました。

文化は「この魚はこういうふうの下ごしらえをすれば、毒にあたらずに済む」とか、「こうすれば風が吹いてきても飛ばない」など、長い歴史の中で生み出されてきた人々の知恵やスキルをどれだけの人々とどのように共有するかという努力の中で生み出されたものです。

②文化というのは、たった一人でつくられるものではなく、たくさんの人の中でつくられます。誰かが優れた芸術作品をつくったとしても、周りの人がそれを高く評価しなければ、残っていきません。ですから、文化というのは、いろいろなことを^あ編み出す人と、それを評価して

広めていく人との共同作品なのです。

その意味でも、文化の象徴である知識・学問・芸術・スキルを学ぶとき、「僕だけがわかれ
ばいい」というのは、正しい文化の伝え方ではないのです。

試験のとき、自分より成績のいいライバルが風邪をひいて休んだら、しめしめと思う、そんな^{※2}な^{※2}さもない考え方ではダメです。授業というのは、先生・生徒の一对一の関係で行われるべきものではなく、先生は生徒に向かって、「先生は問いを投げかけるけれど、考えるのはみんなだよ。みんなで共働して考えよう」と言うべきです。

生徒たちがともに学んで、理解していく。よく理解できていない子には誰かが教えてあげて、学びを共同化していく。仲間に教えることで、その人自身の知識も整理されて、理解が深まります。それが本来の学びのあり方でしょう。

個人的に本を読んだり、テレビを見たりして情報を入手することも大事ですが、それを独り占めするのは自分にとっても、相手にとっても損なのです。自分が持っている知識、入手した知識を周囲に伝え、みんなで共有していくことで人間は文化的になっていきます。

あるいは、それを元に議論し合って、友達からも^{※3}貪欲^{※3}に学んでいく。そうやってみんなで助け合い、共に賢くなっていく。わからない人がいたら、放っておかずに、みんなで教えてあげるのです。そういう姿勢が人類を救ってきたわけですから。

学ぶことを、個人主義化してはいけません。自分の知識をひけらかして、変に^{じまん}自慢^{じまん}し合うのではなく、共に語り合う、ときにディスカッションすることが大事です。「ねえねえ、知ってる?」「それはちょっと違うんじゃない?」「いや、そんなことはないよ」などと、仲間同士で言い合いながら知識を共有していく。そういうことを大事にしながら、学んでいつてほしいと思います。

（汐見稔幸 『人生を豊かにする学び方』）

※1 おみそ… 役に立たないこと。半人前。未熟者。

※2 さもしい… 品性・態度に欲が表れ、いやしいさま。

※3 貪欲… 非常に欲が深いこと。

文章Ⅱ

実学の世界では、知識を持っていたとしても、それがなんらかの判断につながらないのであれば、その知識にあまり価値はありません。そして、判断につながったとしても、最終的な行動に落とし込めないのであれば、やはりその判断にも価値はないのです。

知識・判断・行動の3つがセットになって、はじめて③価値が出てきます。

なので、たとえばあなたが会計学を学んでいるとするなら、簿記何級を取ったとか、決算処理ができるというレベルで満足してほしくないのです。

それは知識を持っているにすぎず、そういう人間はこれからの時代、担当Aとして、会社の都合の良いように使われるだけで、自分の人生を自分で切り開くどころか、会社の業績次第では真っ先にクビを切られます。

それは、担当BでもCでもできる仕事だからです。

《中略》

では、どういった人材を目指すべきか？

自分が作った決算書をもとに、「この部分のコストは下げられるはずです」「この商品売るのはやめたほうがいい」などと、ビジネスの判断に役立つ会計知識を提供できて、はじめて人材としての価値が出てきます。

でも、それだけではまだ不十分。

「こうしたほうがいい」「こうすべきだ」といった提言・提案からもう一步進んで、具体的な行動に移すところまでいかなければなりません。

先日、ヘッドハンター^{※2}として活躍している知人が、以下のように話していました。

「いまの時代、英文会計ができる人材はいくらでもいる。そのなかでヘッドハントの対象となるのは、たとえば海外支社は頑張っているのに、本社がだめで、もうこれ以上お金を出せないといったときに、支社のバラン^{※3}スシートなどをもとに地元の銀行にかけあって、お金の借り入れまでできるような人材だ」

これが、知識・判断・行動のすべてをセットでこなすことのできる、交換不可能な人材の姿

です。

《中略》

もちろん、さらに厳しさを増す今後の労働市場において生き残るため、ということが大前提としてありますが、それだけではありません。これからの日本を形作っていくみなさんひとりひとりがそういった人材になることで、10年後、20年後に、その世代の力で大きく社会を変えてほしいのです。舵^{かじ}を切ってほしい。

世の中を変えるためには、知識を持っているだけではダメです。もちろん、知識すら持っていないのは論外。

日頃から、知識を判断、判断を行動につなげる意識を強く持ってください。

《中略》

学問の世界でも、優秀な人材は問題を複数の視点で捉えます。

人文科学^{※1}、社会科学、自然科学という3つの視点からひとつの問題を捉えるだけでも、問題の見え方は大きく変わってくるでしょう。

日本の教育は、学問の縦穴^{たて}を深く掘ることばかりに注力していて、複数の学問をつなぐ横穴の掘り方は教えてくれません。理科の問題を社会の知識を応用して解くようなことはありませんし、日本史と世界史すら別々に教えている状況です。

福島原発事故で汚染水が漏^もれ出ていることが問題になったとき、原発の専門家が集まって対策を練りましたが、なかなか解決策は見つかりませんでした。

右往左往した結果、最終的に水ガラスを使うことで漏れを防ぐことができたわけですが、その方法はトンネル工事などを行っている建築業界ではあたりまえのものだと言います。

結局、世の中には、それぞれの問題に対するエキスパートはたくさんいても、全体を見て判断できる B はあまりいないのです。

だから、いまの若い人たちには積極的にそこを目指してほしい。そうすれば、貴重な存在として、圧倒的な価値が出てきます。

（瀧本哲史 『武器としての決断思考』）

※1 簿記…企業などの資本の増減・出納を一定の方式で整理する記帳法。

※2 ヘッドハンター…人材をスカウトすることを仕事にする人。

※3 バランスシート…企業の資産などの状態を表した書類。

※4 人文科学…人類の築いた文化・文明。

問題

問一 空らん A にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ けれども ウ そのうえ エ あるいは

問二 — 部① 「と」と同じ意味・用法の「と」を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私は妹といっしょに勉強した。 イ 二人で取り組むと勉強がはかどる。
ウ 姉が帰ってきたと妹が教えてくれた。 エ 姉と妹のどちらも勉強熱心だ。

問三 — 部② 「文化」とありますが、次の文章は、文化はどのように生み出され、作り上げられるものであるかについて、本文を踏まえてまとめた一例です。空らん X・Y に入る言葉としてもっともふさわしいものを、文章Ⅰ から、指定された字数で抜き出してそれぞれ答えなさい。

文化は、長い時間をかけて人々が生み出した X (六字) を、多くの人々と共有するための努力の中で生み出されたものである。この点では、文化は創造する人と、それを Y (十字) とが、一緒につくりあげるものである。

問四 — 部③ 「価値」とありますが、筆者はどのような人材に価値があると考えていますか。「人材」に続くかたちで 文章Ⅱ から六字で抜き出して答えなさい。

問五 空らん B にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア テクニシャン イ プロフェッショナル
ウ プレーヤー エ マネージャー

